



[今月の聖書]

C1711 『私達の戦い』

「最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。また、わたしが口を開くときに語るべき言葉を賜わり、大胆に福音の奥義を明らかに示しうるように、わたしのためにも祈ってほしい。わたしはこの福音のための使節であり、そして鎖につながれているのであるが、つながれていても、語るべき時には大胆に語れるように祈ってほしい。」(エペソ 6:10-20)

「わたしたちは、肉にあって歩いてはいるが、肉に従って戦っているのではない。わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、そして、あなたがたが完全に服従した時、すべて不従順な者を処罰しようと、用意しているのである。」(第2コリント 10:3-6)

「信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。」(第1テモテ 6:12)

「しかるに、神は感謝すべきかな。神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き、わたしたちをとおしてキリストを知る知識のかおりを、至る所に放って下さるのである。」(第2コリント 2:14)

お元気でおすごしでしょうか。10月が慌ただしく過ぎ去って行きましたね。しかし、人生を信仰の戦いと位置付けるなら、落ち着いて世の中を見、主のみことばに従って進むべきです。そこで今月のテーマは「私達の戦い」(エペソ 6:10-20)です。聖書の記述には必ず悪魔、悪霊が登場します。光の神に対抗する闇の世の主権者の存在です。この世に生を受けて、生きることも戦いです。しかし、信仰の戦いがありますね。神のみに依り頼んで、福音を伝えることは至難の業ですね。しっかりとキリストを見つめ、みことばに依り頼んで、進む必要があります。悪魔のはたらきは①人を自己中心にする。②死に迫りやる。③現実のみを見せて希望を持たせない。④罪に誘惑する。⑤信仰を喪失させる。⑥健康を害する。……など。そこで、信仰者は悪魔の攻撃に耐えうる知恵と力を頂かねばなりません。そのような意識を持ってキリストについて行くなれば敗北はありませんね。「要塞をも破壊するほどの力ある祈りと信仰」を求めましょう。CFIが始まって25周年になります。この働きが用いられますようにどうぞお祈りください。感謝をもって。

*地区集会のご案内

1 1月8日(水) 9日(木) CFI 沖縄集会(問合せ 謝花奈津子 090-1348-0872)

1 1月14日(火) 13:00 CFI 横浜集会(福音喫茶メリー Tel 045-231-6773)

1 1月15日(水) 11:00 CFI 賛美の集い(田園調布チャペル)、14:00 ジョイコーラス

1 1月21日(火) 13:00 CFI 千葉集会(京葉銀行文化プラザ7F Tel 043-202-0800)

* 1 1月16日(木) 11:00 バイブルアカデミー(自由が丘本部事務所、要登録、受講料1回3,000円)

* 1 1月11日(土) 16:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会(淀橋教会)

* 1 2月9日(土) 18:00 メリークリスマスイン青山(アイビーホール青学会館グローリーチャペル チケット1000円 お申し込みは事務局へ)

宮里 健二 (沖縄県)

「戦後 72 年に思いを寄せて」

「わたしは平安をあなた方に残して行く。わたしの平安をあなた方に与える。わたしが与えるのは世が与えるものとは異なる。あなた方は心を騒がせるな、怖じけるな。」(ヨハネ 14 : 27)

沖縄県糸満市の平和祈念公園に立てられた「平和の礎」には 2017 年 6 月 23 日現在、241468 名の戦没者が刻銘されている。

1931 年満州事変以降、沖縄戦までの県内外における沖縄県出身戦没者 149425 人、沖縄地上戦における県外都道府県、米国、英国、台湾、韓国、北朝鮮の戦死者 91989 の名がある。毎年身元が判明し、その数は増え続けている。戦争の悲惨、哀れさは、戦没者だけではない。辛うじて生き延びた人々には、心や体に深い傷を負い、いつまでも終わることのない思いを抱きつつ、戦後を生き延びた人々が実に多い。戦争の「被害者」であるはずの「自決」(強制集団死)未遂者の中には、親族に手をかけたことで「加害者」にされ、孤独な余生を終えていった人も数多くいる。

苛烈を極め尽くした戦争が集結して今年で 72 年の歳月が流れた。

私は今年も「平和の礎」に刻まれている父の名を両手で覆いながら「神よ、いつまでですか」と声を大にして叫んだ。毎年、24 万余の尊い犠牲者の重みを後世に伝えることが、戦後生き延びた私達の責務と改めて考えています。

旧約聖書にこういう聖句があります。

「さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、また癒し、わたしたちを打たれたがまた包んでくださるからだ」(ホセア 6 : 1)。決して風化させてはなりません。

「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれるであろう。」(マタイ 5 : 9)



◇投稿募集のご案内◇

皆様の原稿をお待ちしています。

毎月のCFIニュースレターの裏面に順次掲載させていただきたいと思います。

- ・すくい体験のあかし
- ・個人的願いや祈り
- ・信仰生活のあかし
- ・主にある交わりのレポート
- ・最近気づいたことや発見したみことば
- ・CFIメッセージの感想や教えられたこと

何でも結構です。800字程度で、手紙、ファックスかメールで送ってくだされば幸いです。